

# 山陰近畿自動車道早期実現促進大会

【開催日時】令和3年12月12日（日） 13:30～15:00

【場所】京都府丹後文化会館 ホール（京丹後市峰山町）

【主催】丹後・地域高規格道路推進協議会（舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）

【後援】京都府、京都府高速道路網整備促進協議会

【内容】1 開会宣言 2 主催者挨拶 3 来賓祝辞 4 来賓紹介 5 祝電披露  
6 基調講演 7 意見発表 8 大会決議 9 要望書手交 10 閉会挨拶

【参加者数】約420人



【京都府丹後文化会館 ホール】  
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため席の間隔を空けて着席していただき大会は満席の約420人の出席者で早期全線整備にかける熱気に包まれた。

山陰近畿自動車道は、地域の方々にも大きなメリットを運ぶものです。早期整備が加速することを心から祈念して大会の開催を宣言します。

山陰近畿自動車道の整備は、京都府北部への人・モノ・仕事の流れをつくる地方創生を加速させていくための重要な基盤であります。一日も早い全線整備の実現を心から強く願います。

## 来賓祝辞 「山陰近畿自動車道」の早期実現は丹後地域にとって重要！



山陰近畿自動車道は丹後の人間にとって大変重要な道路。高規格道路が一本 繋がることにより、様々な地域から観光で多くの人に来てくれる。この道路が早期実現すべく関係者の皆様と頑張っていく。



この道路が必要なことは今更言うまでも無く、この道路が何年で完成するという出口が示されていない。国債の発行によりインフラ整備ができる財政の仕組みを関係国会議員とともに勉強していく。



山陰近畿自動車道の早期実現は地方創生のためには欠かせません。今後も地域の方々と 国、地方行政が連携し、これまで以上に強力な道路整備の推進に向けた活動の展開を期待申し上げます。



東川さんが建設交通部長の時に大宮までの道路が事業化できた。先線の整備も東川さんが局長をしている時が最大のチャンス。京都府も国の支援をいただきながら道路整備の取り組みを進めていく。



山陰近畿自動車道の整備は救急体制の確立や周遊観光における利便性の向上など地域の発展に大きく寄与する道路である。府議会としても道路整備を実現するために全力で取り組んでいく。



## 基調講演 「道路行政を取り巻く最近の話題」

国土交通省近畿地方整備局 局長 東川直正 様

3年間京都府の道路建設行政に携わらせていただきました。引き続き近畿地方整備局長として山陰近畿自動車道の整備も含めて頑張っていきます。

【講演の内容】「道路行政を取り巻く最近の話題」について以下の

7つの視点に基づき講演

- ① 日本の道路整備状況及び都市間連絡速度
- ② 予防保全による老朽化対策
- ③ 令和3年度道路予算
- ④ 防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム
- ⑤ 道路整備によるストック効果
- ⑥ 山陰近畿自動車道の整備状況
- ⑦ 道の駅



## 意見発表

「丹後地域の観光・農業の活性化」のためには道路の早期整備が必要！



京丹後 〇かみさんの会  
座長 池田 香代子 様

丹後の観光はコロナ禍で大変厳しい状況が続いておりGoToトラベル再開による観光客の増加を期待している。私たちは「まごわやさしいこ」の健康食プランに力を入れており、山陰近畿道が全線開通することで、中国地方のお客さんにもきていただきたい。まずは峰山から網野までの早期事業決定を切にお願いしたい。



こと京都株式会社  
代表取締役 山田 敏之 様

京都伏見で農業を営んでおり、九条ネギの周年栽培をしている。事業規模は35haを栽培しており、今年から丹後地域でも8ha栽培。また、今年の5月に峰山に工場を建設。昨今の異常気象でも丹後地域は安定して栽培できる良い地域。道路が繋がることによって京野菜の発信にも繋がりますので早期整備をお願いしたい。

## 【要望書手交】



「山陰近畿自動車道」の早期実現を願い協議会会長副会長が国会議員・国・府・府会議員へ要望書を手交

## 【大会決議】



副会長（与謝野町長）  
山添 藤真

- 大宮峰山道路の事業推進
- 網野ICまでの早期事業決定
- 府県境までの早期ルート決定
- 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」は、計画的に事業の推進を図るため、当初予算を含めて通常の予算とは別に必要となる予算を継続的に確保すること
- 直轄権限代行や大規模自然災害等に対応するための地方整備局等の体制の充実・強化

## 【閉会挨拶】



副会長（伊根町長）  
吉本 秀樹

我々は「ないものねだり」をしているのか、いやそんなことはない。山陰近畿自動車道は丹後地域のみならず山陰地域の発展を図るために必要不可欠である。全ての人と人のつながりを最大限に活かし我らの悲願達成のために大きな声を上げていく。